



2025年4月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は盛夏を過ぎましたが、まだ **30度** を超える日も多く、今年も遅い秋の訪れになりそうです。地球温暖化現象により南半球の異常気象も慣れてきました。

チリ南部ではまだ森林火災が発生しており、しばらくは雨季のシーズンを迎えるまでは油断が出来ません。

銅価格は昨年 **5月** に **5.0** ドルを超えて過去最高値になりました。**6月** 以降は **4.0-4.5** ドル台になり、先月は **4.46** ドル平均で高値安定しています。

為替はドルに対して **1000** ペソを超えた後、**950** ペソ台に戻り、先月の為替市場は **925** ペソ平均でペソ高ドル安傾向が続いています。

チリ中央銀行は公定歩合を **5.0%** で据え置きにしました。

チリ大統領選挙は今年 **11月** までに行われる予定ですが、現在の新左翼政権からチリ国民は右翼政権へ政権交代を望んでいるようです。

2. 世界市況

中国市場は旧正月明け以降も国内景気は低迷が続いており、チリからの販売数量も過去 **5年間** で半減しています。今後のトランプ関税により、主流のロシア材が増える見込みです。またカナダ、**NZ**、日本からの引き合いが増えることも予想されます。

中近東向けバルク配船は **50,000** トン近い船を継続して配船をしていますが、製材価格の上昇には限界があり、サプライヤーの利益率はあまり良くありません。しかし、欧州下級材の供給もタイトな市況は続いており、チリサプライヤーが生産数量を確保する為には中近東市場は重要です。今後、戦争が停戦に向かうと欧州材は更にタイトになり、値上がりをする可能性が高く、中近東向け販売数量が伸びるかもしれません。韓国市場は中国の景気低迷により輸出梱包材の動きが静かになっています。また韓国政局の不安もあり、今後の韓国景気は伸び悩みが予測されます。中近東同様に欧州下級材の入荷は限られておりますが、毎月のコンテナ配船の為、中近東のバルク配船の

ように日本と生産時期が重なることはないので、日本市場向けの生産に影響は少ないと思います。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2025年2月配船（1番船）は当初予定より、約10日遅れて現地を3月12日に出港をしました。川崎入港が4月20日になり、5月連休を挟んで大阪へ寄港する予定です。前回5番船との間隔が約2ヶ月半近く開きます。

2025年5月配船（2番船）は現地を5月下旬までに出港して、早ければ川崎入港が6月下旬を予定しており、7月にかけて名古屋と大阪へ寄港する予定です。

次回の配船は7月配船（3番船）を予定しており、現地を7月下旬/8月上旬に出港して日本入港が9月を予定しています。

今年はバルク運賃の方がまだコンテナ運賃より高いですが、船運賃の差は縮小しており、森林からの丸太伐採、製材工場の生産効率、港湾作業等を考えると、まだバルク配船を継続する方が日本市場にはメリットがあるようです。

b) 梱包市況

3月以降の梱包材市況は1-2月より動きは出ておりますが、国産製材（杉、檜、カラ松）、LVL、合板などチリ材と競合する梱包資材が多く、各社は苦戦をしております。

チリ材業者は3月より製材価格の値上げをしており、関東地区の価格は2000-3000円の値上げが浸透してきました。名古屋は4月以降も値上げを浸透していく予定ですが、大阪はまだ昨年からの値上げ交渉が継続中で、新規の値上げは先になりそうです。

NZ製材業者は5月以降に2000円の値上げを浸透させていく計画ですが、梱包、パレット市況の需要が低迷していると値上げのタイミングが遅れる可能性はあります。

為替相場は150円を挟んで上下していますが、145円前後の水準が定着すれば、各社の販売コストも2番船以降は下がります。しかし、今後の為替水準によっては2番船以降のコストが上昇することも想定されますので、値上げを浸透させなければなりません。国産杉製材業者は3月までには2000-3000円の値上げが浸透出来たようです。

2月以降からの丸太不足はまだ解消されず、5月の連休明けには出材が戻りそうです。新設住宅着工率は低迷をしていますが、住宅建築材を輸入材から国産材へ移行する動きは継続しており、第2四半期の欧州材の輸入数量も少ない見込みで、価格も値上がりをしており、今後も国産材より割高になりそうです。しばらくは杉製材業者が梱包材を増やすことは厳しい市況が続く、納期がかかるケースが増える見込みです。

今後の輸出梱包需要、為替動向により、チリ材、NZ材が杉製材の不足分を補完する梱包業者が増えてくると、チリ材の市況に変化が現れる可能性も出てきます。

以上